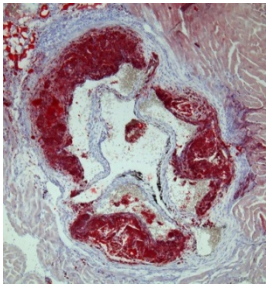


# 動脈硬化チーム



## 研究テーマ

アテローム性動脈硬化症の進展には、血管壁の細胞外基質の主要構成成分の1つであるプロテオグリカンが関与している。プロテオグリカンはコアタンパク質にグリコサミノグリカン(GAG)鎖が共有結合した複合糖質で、GAG鎖中のコンドロイチン硫酸(CS)やデルマトン硫酸(DS)はLDLと高い親和性を示すため、血管壁へのLDL沈着を促進すると考えられている。また、GAG鎖伸長によりLDLとの結合が増加し、これが、アテローム性動脈硬化症発症の進展に関与しているという報告がある。このことから、プロテオグリカンに着目して研究を行っている。



## 卒論発表

- ・細胞外基質中コンドロイチン硫酸の動脈硬化症発症との関与
- ・細胞外基質プロテオグリカンのアテローム性動脈硬化症進展の役割
- ・動脈硬化症発症・進展におけるSCUBE2の役割解明